# すぐ会いに行ける 身近な国会議員を目指して

## 国光（くにみつ） あやの × 長塚（ながつか） 英治（ひではる）

国光 あやの　衆議院議員

長塚 英治　つくまる 編集長

つくまるなことをマガジン つくまる

写真／三浦 一憲

「国会と現場のギャップを感じることはありますか」

「現場感覚をモットーに、つくばと国会の架け橋に」

第54回つくまる対談のお相手は、つくば在住の衆議院議員 国光あやのさんです。医師から政治家を目指すきっかけや地元つくばでの活動、つくばへの想いなど、お話を伺いました。

### 医師不足を実感し目指した医師導かれるように政治の世界へ

**長塚**　茨城との関わりはいつからですか？

**国光**　もともと医師をしていて、新人の頃に医師不足で大変だと聞いて土浦の霞ヶ浦医療センターによく当直に来ていました。選挙になる前は、週2回ほど内科医として病院に勤務していました。

**長塚**　子供の頃から医師になりたかったんですか？

**国光**　母が薬剤師でしたので医療系がいいなと思っていたのと、医師不足を実感して。茨城も医師数ワースト2位の県ですが、医師不足の地域で貢献したいなと小さい時から思っていました。

**長塚**　政治に興味を持ったきっかけは何だったんですか？

**国光**　例えば医師不足という問題も臨床現場だけでは限界があり、課題を突き詰めていくと最後は仕組み、つまり政策だと感じて、政策を作る厚生労働省に入省しました。そこで13年医療介護政策に関わる中、最後は政治のリーダーシップで決断することがたくさんあり、それなら自分が政治に携わって現場に貢献したいと思いました。もう一つは、子どもが生まれてから社会保障全体への不安を感じました。医療や介護、子育てなどこのままで大丈夫かなと。保育所や医者、介護施設を増やすとしたらそこに携わる人が必要で、そうすると財源がいる。その財源をどう確保するかは政治の決断になるんです。それがもう一つの大きなモチベーションで、子どもたちの未来のために、安心できる社会保障制度を作っていきたいと思いました。

### 疲れを感じさせない「やりがい」現場に合わない制度は即改善を

**長塚**　政治の世界はいかがですか？

**国光**　当選以降全く休みはなく朝から晩までという感じですが、不思議と疲れはなく、大変ですけどやりがいがすごくありますね。

**長塚**　国では働き方改革も実施していますが、働き方改革に限らず、国会での出来事と現場のギャップについてはどのように感じていますか？

**国光**　休みに関しては自分は仕方ないと思っていますが、スタッフには徹底して働き方改革をしています。国政と現場がかみ合っていない事は確かにありますね。最近では妊婦加算が話題になりましたが、妊婦さんを診る医師はお腹のお子さんにも配慮が必要になるので診療報酬を上乗せしよう、ということで妊婦加算が昨年4月に始まりました。ですが、診療報酬は3割負担なので結局妊婦さんの負担が突然増えてしまった。本来は医療者と患者さんの安心のためと考えた加算が、十分な説明と納得感がないまま現場の混乱がどんどん大きくなる。これは問題だということで、小泉進次郎さんと一緒に国に働きかけ、妊婦加算のいったん凍結を昨年12月に行いました。今、改めて妊婦さんや産科医療に対するあるべき支援について見直しているところです。医療や子育てなど「現場感覚」をモットーに、つくばと国会の「架け橋」になりたいです。

### つくばの強みをを活かしたPR強化網の目のようなセーフティーネットを

**長塚**　つくばに住んでみて、街の印象はいかがですか？

**国光**　過ごしやすいですよ。お互いが自立していて外から来ている方も多いので、多様性を排除しないというか、そういう部分では居心地がいいなと。

**長塚**　もっとこうだったらいいのにと思うことはありますか？

**国光**　生活者目線で考えると、アクセスや建物などの都市計画の部分は改善の余地があると思います。中心部の公務員宿舎問題やつくばに来る方にどうおもてなしをするか。つくば駅は、降りてもどこに何があるのかわからないとよく言われます。その辺をもう少し見える化していきたいと思います。

**長塚**　PRの問題も含めて、つくばをもっと知ってもらうためにどうしたらよいですか？

**国光**　プロモーションやマーケティングを強化しないと埋もれてしまいますよね。今は自治体間の競争がすごく、危機感を持っているところは必死さが違います。東京で仕事をしていた時は必死な自治体ほど、どんどん東京にトップセールスに来て、懸命に売り込みをしている。それと身近な例で、東京などの方につくばのお土産を渡したいとき、確かにいいものはあります、でも目立たない。お米やお酒もとても美味しいのですが、他の地域にもたくさんあるので、つくばの強みはこれだという差別化がやや弱い。

**長塚**　県民性もありますが、自己主張することがないですよね。

**国光**　自己主張しないのは、もともとどの県も似ていますよ。でも風向きが変わったのは、人口減少が進み生活上の困難や、地域への愛着やプライドからです。つくばは国策で創ってきたイノベーション都市で、東京へのアクセスや美しい自然などたくさんのポテンシャルがある。それを存分に活かしたPRやネットワーキングを、地元の国会議員として頑張っていきたいですね。

**長塚**　その他につくばの課題などはありますか？

**国光**　虐待やひきこもり、貧困も結構あるんです。土浦児童相談所が担当エリアですが、つくば市が一番増えています。他の地域から来た方が多いので知り合いもなく、孤独感を抱え子供に手を出してしまったり、産後鬱になって入院している方なども。母子家庭が増えて、経済的に厳しいところもあります。全国で地域のようにすることですね。行政だけでは限界があるので、民生委員さんや民間、NPO、有志も含めてネットワークを国政から強化していけたらと思っています。

**長塚**　最後につくまる読者の皆さんへメッセージをお願いします。

**国光**　一言でいうと「身近な私事のお困りをなんでも相談して下さい！」市や県だと国のことはなかなかできませんが、国の立場ですと市や県にもフィードバックしやすいので、何でも相談にのれます。ここの道路が危ないとか、病気でつらい、仕事がないなど何でも構いません。

**長塚**　国会議員の方にそんなに身近な事を相談していいのですか？

**国光**　私の場合は全く気にしなくて大丈夫です。私事で困っていることがその人だけでなく、国の政策を作る事にも役立ちますから。会いに行けるアイドルという言葉がありましたが（笑）「すぐ会いに行ける国会議員」を目指して活動しています。

（2019年6月3日　於 つくばインフォメーションセンター）

**国光 あやの（衆議院議員）**

職歴
H15年　国立災害医療センター医師
H17年　厚生労働省で医療・介護政策に従事
H29年　同省保険局 課長補佐で退任
H29年　衆議院議員選挙 初当選（茨城6区）

学歴
H15年　長崎大学医学部 卒業
H20年　米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）修了
H22年　東京医科歯科大学 修了

小学生の母、つくば市在住

○茨城事務所
茨城県つくば市吉瀬1851-1
TEL：029-886-3686　FAX：029-893-2022
http://kunimitsu-ayano.jp/